

豫州松山城

松山

子規

天皇



子規31歳



子規画「蔓草と鶏頭」

人間 正岡子規 正岡子規は、慶応3年(1867)9月17日、伊予国温泉郡藤原新町(現松山市花園町)で生まれました。翌年が明治元年ですから、子規の年齢は明治の年号と同じになります。本名を常規つねのり、幼名を升のぼるといい、父常尚つねなおは、松山藩士御馬廻番、母八重は藩校明教館教授大原観山の長女です。5歳のとき父を亡くした子規は、祖父観山の訓育を受け、叔父加藤拓川たくせん(後外交官、松山市長)の影響を受けました。

自由民権運動に触発され、政治家をめざして明治16年

に上京、第一高等中学校、帝国大学文科大学に進学します。しかし、22歳のときに咯血して「子規」と号したころから真剣に文学を志し、大学を中退して入社した新聞「日本」で、俳句や短歌の革新を叫び、新体詩を試み、写生文をとねえました。明治28年からは脊椎カリエスの病苦にあえぎながらも、死の2日前まで随筆「病牀六尺」を発表しつづけて、明治35年(1902)9月19日亡くなりました。「写生」に根ざした子規の文学は、多くの仲間とともに子規山脈を形成し、近代文学史上に輝いています。

展示第1室

(2階)

I 道後・松山の歴史

- A** 伝承の愛比売
- B** 古代人の美
- C** 万葉の時代
- D** 中世の文化と伊予
- E** 松山藩の藩政のもとに

II 子規とその時代

- F** 子規のおいたち
- G** 青雲の志
- H** 青春に賭ける日々
- I** ジャーナリスト子規
- J** 映像でたどる明治の息吹

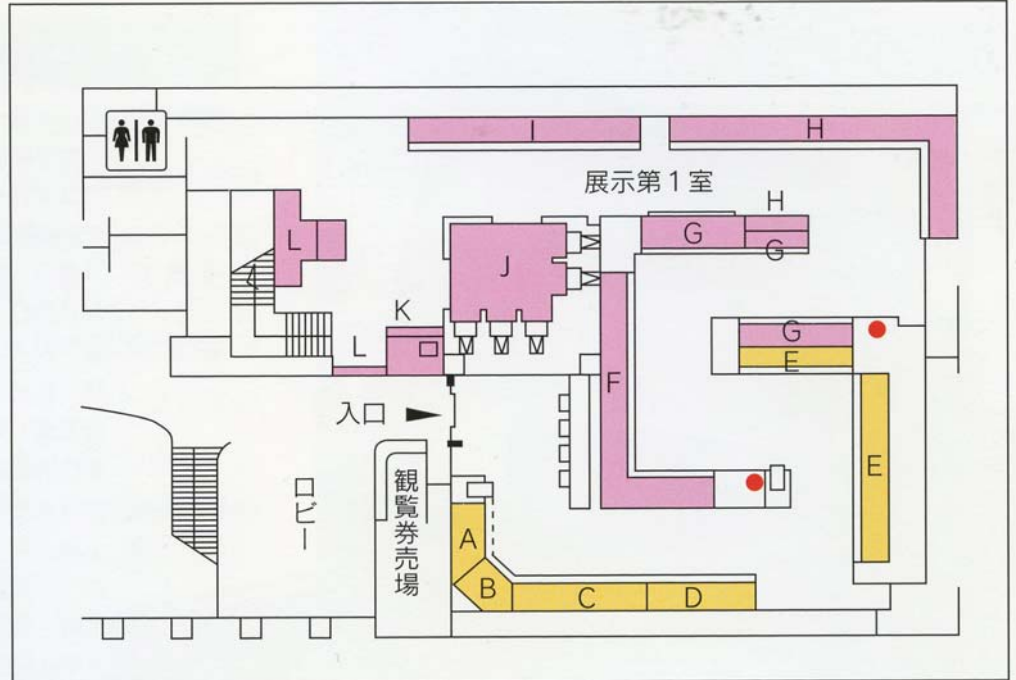
() はおよその上映時間

- 「子規吟行の地を訪ねて」 (9分)
- 「日露戦争と秋山兄弟」 (12分)
- 「子規庵に刻まれた歴史」 (10分)
- 「子規と絵画」 (10分)
- 「子規とたべもの」 (10分)
- K** 名作『坊っちゃん』と松山
 - 「『坊っちゃん』の世界」 (6分)

L そのころの松山

●コーナー解説映像

各コーナーに、約3分の解説映像を設置しています。



道後・松山の歴史

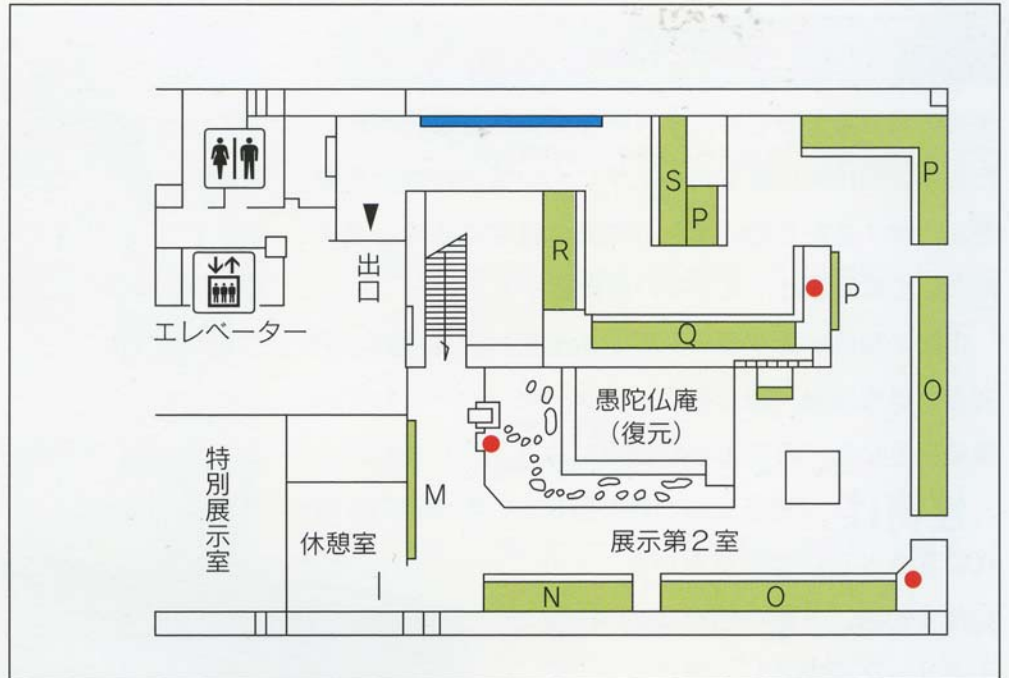


展示第2室

(3階)

Ⅲ 子規のめざした世界

- M 子規のあゆみ (年譜)
- N 二人の文豪
- O 闘病の中での文学的結晶
- P 苦痛をのりこえて
- Q 子規とともに
- R 特集コーナー
- S 子規とベースボール
- 伊予からはばたいた才能たち



愚陀仏庵 (復元)



子規短歌

病牀 外ノ月夜ヲナガシト
 即事 ラケノ影ノワツリテ見え規

いさくしアメリカノ子規
 一スボールは尺八とあるが

松山市立子規記念博物館は 正岡

子規の世界をとおして、より多くの人びとが松山にし
たしみ、松山の伝統文化や文学についての認識と理解
をふかめ、あたらしい文化の創造に役立てることを目
的として開設された文学系の博物館です。

市民の知的レクリエーションや学校の課外学習、研
究者の研究機関、観光客のビジターセンターとしての
機能をそなえ、昭和56年4月2日にオープンしました。

建物は 道後公園の緑と調和し、明治という時

代にふさわしい雰囲気をかも
しだすため、外観の色彩はア
イボリーを基調とし、屋根に
は銅板を使用して「蔵」をイ
メージしています。また、正
面入り口の門扉および2階窓
の飾り格子に、子規ゆかりの
俳誌「ホトトギス」の表紙デ
ザイン（浅井忠・中村不折・



橋口五葉画) を借り、子規文学を象徴しています。

常設展は 新時代「明治」を生き、「明治」を
つくった若者子規の全体像を、いかに統一的に再構成
し、わかりやすく表現するかという観点から展開して
います。展示法としては、実物資料をはじめ、レプリ
カ、パネル、映像などの資料で子規の生涯が追体験で
きるように、全体を貫くストーリーを持ったテーマ展
示を基本としました。

「人間正岡子規」をメインテーマに、子規の中に息
づく伝統と風土、子規の生きた時代のダイナミズム、
多様性と統一性としての子規世界をえがくべく、3つ
のサブテーマ、I 道後松山の歴史、II 子規とその時代、
III 子規のめざした世界 に大別しました。

展示室では 展示資料と観覧者を結ぶ助言
者として、インストラクターが質問や相談に応じてい
ます。また予約があれば、ボランティアによる英語ガ
イドなどの要請にも対応しています。

また、より多くの
方々に短詩型文学に親
しんでいただくため
に、友の会の協力を得
て、初心者のための俳
句教室や短歌教室、初
学万葉講座、連句教室
を設けています。

当博物館では情報センター として
の役割りを重視し、映像ガイド等を設置しています。
子規資料を柱に、文学や郷土にかかわる資料を収集保
管するとともに調査研究をおこない、その成果は特別
企画展、子規博セミナーなどの講座、季刊「子規博だ
より」の発行などの博物館活動を通じて提供していま
す。



利用案内

- 開館時間** 5月1日～10月31日
 午前9時から午後6時(入館は、午後5時30分まで)
 11月1日～4月30日
 午前9時から午後5時(入館は、午後4時30分まで)
- 休館日** 月曜日、祝日の翌日(日曜・祝日は開館)
 12月29日-12月31日
- 観覧料** 個人/400円
 団体/320円(20人以上)
 ※児童・生徒 無料
 ※特別展観覧料は別に定めます。
- 駐車料** 30分あたり100円
- 施設** 1階/ロッカー室・視聴覚室・閲覧室・事務室・
 ミュージアムショップ
 2階/観覧券売場・展示第1室・ラウンジ・会議室
 3階/展示第2室・特別展示室・研究室
 4階/講堂・和室
 地階/駐車場

- 交通案内**
- JR松山駅より〈電車〉……………所要約20分
 - 松山空港より〈バス〉……………所要約35分
 - 松山観光港より〈バス〉……………所要約45分
 - 三津浜港より〈バス〉……………所要約40分
 (※バス・電車は各始発駅から道後温泉行になっています。)
- ◎松山市内定期観光バスにも含まれています。
- おねがい**
- 手まわり品は1階ロッカーにお入れ下さい。
 - 展示室内での飲食・喫煙・写真撮影はご遠慮ください。
 - 展示室内は資料保護のため、照明を暗くしています。

松山市立子規記念博物館

〒790-0857 ☎ (089) 931-5566
 松山市道後公園1-30 FAX (089) 934-3416
<http://www.city.matsuyama.ehime.jp/sikihaku/>

